

大阪役所本庁舎の屋上緑化施設。毎年春から秋の期間に週3回、一般公開される。南ブロックは花々や花木で開放感のある庭園空間が広がる



市役所屋上の北側ブロックは、実のなる木や野草類など鳥や昆虫が好む自然環境を創出



昆虫や鳥の生息の場でもある市役所屋上。季節ごとに違う、小さな生き物の発見が楽しい

屋上緑化を中心とした 都市に土と緑を復活させる活動

report

都市の緑化推進と活用 ― 大阪市ゆとりとみどり振興局 ―

自然と共生する都市のあり方を提案

四季折々の表情を見せる花々、里山のような高木や野草が茂る緑豊かな庭園。少し遠くに目をやると、立ち並ぶオフィスビルの間から大阪城が見える。ここは大阪市街の中心、大阪役所本庁舎の屋上緑化施設。2004年の開設時から一般公開されており(毎年春から秋の期間、週3回)、市民が立ち寄り、気軽に植物と触れあえる散歩コースになっている。

全国でも暑さが厳しく、公園などの緑地も少ないといわれる大阪市。市街地に緑地を増やす屋上緑化のシンボルとして整備されたこの庭園は、ヒートアイランド対策を啓発すると同時に、都市空間の緑の価値を目に見える形で発信している。

施設の管理、運営のほか、幅広い活動で市内の緑化を進めているのが「大阪市ゆとりとみどり振興局」。民間建築物の屋上緑化事業の助成を受付する窓口でもあり、年間で約50件ほどの申請があるという。

「最近の助成の新しい傾向は、工場屋根の屋上緑化。鋼板に覆われた建物内は熱がこもるため、暑さ対策や空調負担の軽減などのニーズが高まっているようです」と、同局、緑化推進部協働課の村田麻依さん。

長居公園内にある「花と緑と自然の情報センター」。大阪市が手がけた屋上緑化施設のひとつで、2Fの一部が人工地盤によるルーフガーデンに



「O-CAT屋上ガーデン」。大阪市による既存建物の屋上緑化改修事例で、2000年にJR難波駅上部の大阪シティエアターミナルビル（通称O-CAT）屋上に開設された



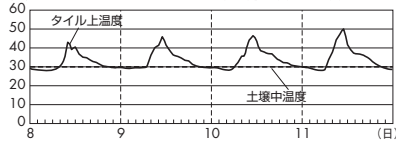
「大阪市中央体育館」。2つのアリーナ、練習場、会議室など全施設を地下に設け、屋根上部を緑豊かな公園として活用。写真は体育館の入口部分

「大阪市ゆとりとみどり振興局」
問い合わせ先

〒553-0035
大阪市福島区野田1丁目1-86
大阪市中央卸売市場業務管理棟 6階
TEL:06-6469-3855
<http://www.city.osaka.lg.jp/yutoritomidori/index.html>

タイル面と土壌深さ30cmの温度比較

大阪役所屋上緑化施設 北ブロック
2004年8月8日～11日



日中は最高で50°Cに達するタイル表面に比べ、植栽が覆う深さ30cmの土壌中の温度は約30°Cで一定している

大阪役所屋上でゴーヤを使った「緑のカーテン」の実例を展示。窓面に蔓を這わせて、室内への熱の流入を防ぐ。栽培方法など市民向けの講座を開催して普及に努める



市役所屋上の調査でも土や植物の層は断熱材となり、建物内への熱の流入を抑えることがわかってるが、その一方で土や緑が人間や生き物にもたらす根源的な力に驚かされることも多いという。

たとえば、市役所屋上では市民ボランティアの協力を得て定期的な生き物調査を実施しており、植物の経年変化とともに、ここに生息する昆虫や鳥は7年間で300種以上確認されている。かつて、ただのコンクリート空間だった屋上は、虫や小鳥など多くの生命を育む都会のオアシスとして生まれ変わり、観察を楽しむ親子連れの姿も見られるようになった。

また、屋上緑化だけに留まらず、学校や公共施設で推進される「緑のカーテン・カーペット」の技術指導や、市民が育てた花苗を街中の花壇に植え付ける「種から育てる地域の花づくり」など、市民と一体になった活動にも力を入れる。この参加者は中高年から高齢者が中心で、植物を通じたまちづくり活動を通じて、人の輪や行動範囲が広がるといった影響も大きいようだ。

「花や緑を熱心に育てる人に共通することは、表情も動きも生き生きしていること。土に触れていると年齢や性別を問わず、なぜだか人は元気になるんですね」と同局課長の宮崎良彦さんは語る。

土や緑、花に触れることが、都会の暮らしにちょっとした活力や潤いをもたらす要素になるとしたら、都市の緑化は人間らしい潤いのある生き方を取り戻す活動ともいえるだろう。緑を増やすことからもう一歩踏み込んで、緑をどのように活用していくかを提案する、新しい緑化推進の波が広がることを望みたい。

(文責・CEL編集室)

